# 令和８年度　建設常任委員会　行政視察報告書

| | | | |
|---|---|---|---|
| 視　察　日　時 | 令和８年１０月１６日(金)　午後１時００分から午後２時３０分 | | |
| 視　　察　　先 | 岡山県赤磐市 | 人口 | 41,922 人（R8.4.1） |
| | | 面積 | 209,36 ㎢ |
| 担 当 職 員 等 | 建設事業部部長、建設課課長、他４名 | | |
| 視　察　内　容 | 立地適正化計画について | | |
| 視　察　目　的 | 人口減少や少子高齢化が進行するなか、将来にわたって持続可能な都市構造を形成するためには、居住地や医療・福祉・商業等の都市機能の配置を見直すとともに、公共交通との連携を図り、効率的で利便性の高いまちづくりを進めることが重要である。<br>本市においても、今後の人口動態や高齢化の進展を見据え、公共施設や都市基盤の維持管理、生活利便施設へのアクセス、地域ごとの特性に応じたまちづくりなど、将来を見据えた都市構造の検討が求められる。<br>そこで、赤磐市が策定する立地適正化計画について調査し、居住誘導区域や都市機能誘導区域の設定、都市機能の集積、公共交通との連携、防災対策などの取組を学ぶとともに、本市の都市計画や今後のまちづくりに活かすことを目的として視察を実施した。 | | |
| 調　査　概　要 | 赤磐市立地適正化計画は、人口減少や少子高齢化による地域活力の低下、空き家の増加、公共施設の老朽化に伴う維持管理・更新費用の増大などの課題を踏まえ、必要な都市機能や生活サービスを将来にわたって確保することを目指すものである。<br>同計画では、居住誘導区域や都市機能誘導区域を設定し、医療・福祉・商業等の生活に必要な機能を適切に配置するとともに、公共交通との連携による「コンパクト・プラス・ネットワーク」のまちづくりを推進している。<br>また、計画を実効性のあるものとするため、都市計画の見直しによる都市構造の再編や、市街地の無秩序な拡散の抑制、新たな都市拠点の形成など、土地利用の方向性を明確にした施策を位置づけている。さらに、防災指針を設け、浸水や土砂災害等のリスクを踏まえた対策についても、具体的な取組や実施時期を示している。<br>今回の調査を通じ、立地適正化計画は単に区域を指定するための計画ではなく、土地利用、公共交通、生活サービス、防災、公共施設の配置などを総合的に捉え、将来の都市のあり方を具体的な施策へとつなげるための計画であることを確認した。 | | |

# 令和８年度　建設常任委員会　行政視察報告書

| | |
|---|---|
| 所　　感 | 今回の視察を通じて最も重要であると感じたのは、立地適正化計画は計画を策定すること自体が目的ではなく、計画に基づく取組を継続的に進め、実際のまちの変化につなげていくことが重要であるという点である。<br>人口減少や高齢化が進むなか、居住地や都市機能が広範囲に分散した状態が続けば、公共交通の維持が難しくなるほか、医療・福祉・商業などの生活サービスの確保や、道路・上下水道・公共施設等の維持管理にも大きな負担が生じることが懸念される。<br>橿原市においても、将来の人口構成や地域ごとの特性を踏まえ、どの地域にどのような都市機能を維持・誘導していくのか、また、各地域から必要な施設へどのように移動できる環境を整えるのかを、一体的に検討する必要がある。特に、公共施設の整備や更新にあたっては、個別の施設の必要性だけでなく、既存施設との役割分担、将来の維持管理費、周辺のまちづくりへの効果などを総合的に判断することが重要である。<br>一方で、居住や都市機能の誘導は、市民の日常生活や地域の将来に大きく関わるものであり、行政の判断だけで進められるものではない。地域によって生活環境や交通事情、抱える課題は異なるため、施策の必要性や将来像について丁寧に説明し、市民の理解と協力を得ながら進めていく必要がある。また、市議会においても、計画の策定段階だけでなく、施策の進捗や効果を継続的に確認し、市民の声を行政に届けながら、必要な見直しを促していく役割が求められる。<br>今後、橿原市が持続可能なまちづくりを進めるためには、立地適正化計画を都市計画部門だけの取組にとどめず、公共交通、防災、福祉、子育て、公共施設の再編など、関連する政策と連携させることが不可欠である。さらに、市議会・行政・市民が将来の都市像を共有し、それぞれの立場から役割を果たしながら、計画の進捗と成果を検証していく仕組みが必要である。<br>今回の視察で得た知見を今後の議会活動に活かし、目先の施設整備や個別事業の実施にとどまらず、将来の人口規模や財政状況を見据えた都市構造のあり方について議論を深めていきたい。計画をつくることをゴールとするのではなく、計画を市民と共有し、実行し、検証し、必要に応じて見直すという過程を通じて、将来にわたって暮らしやすく、持続可能な橿原市の実現につなげていきたい。 |